

# メロウ・ソサエティ構想と福祉情報化

## 1. メロウ・ソサエティ構想と福祉情報化

「メロウ・ソサエティ構想」は、経済産業省の提唱する長寿社会対策および情報化施策で、情報・通信システムの活用によって高齢者の積極的な社会参加を支援しようという構想です。平成9年度からは「第2期メロウ・ソサエティ構想」を推進し、活力ある「高齢者参加型情報化社会」の実現を目指しています。当協会は構想を推進するため、下記の事業を実施しています。

なお、これまで当事業を協力して推進してきた「メロウ・ソサエティ・フォーラム」を発展的に統

合し、新たな体制で事業に取り組んでいます。

- ①メロウ・シンポジウムの開催
- ②シニア情報生活アドバイザー制度の普及事業
- ③シニアネットワークの構築
- ④高齢者向け各種調査研究・システム開発
- ⑤インターネットによるシニアへの情報提供

「福祉情報化」事業として実施した最近の事業は表1のとおりです。

インターネットによるシニアへの情報提供については、下記のホームページをご覧ください。

URL <http://www.nmda.or.jp/mellow/>

年度	プロジェクト名・内容
H12年度	介護・子育て分野における革新的なサービス提供に資するIT活用事業
H12年度	高齢者・障害者等用情報通信機器等開発事業
H13年度	介護・子育て分野における革新的なサービス提供に資するIT活用事業
H13年度	高齢者・障害者等用情報通信機器等開発事業
H14年度	情報バリアフリー事業
H14年度	IT活用による高齢者・障害者雇用促進ガイド作成・普及事業

表1 福祉情報化事業

メロウ・ソサエティ構想と福祉情報化事業年表

平成/年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	備考
1.メロウシンポジウムの開催	←										→	
					(有楽町マリオン)							
2.シニアネットワークの構築							←				→	
								(神宮日本青年館)				
メロウ・ネット運営(パソコン通信)	←					→						
					(Nifty Biglobe Pepleの各ネットと協力)							
3.シニア情報生活アドバイザー制度							←				→	
								(調査開発試行)				
									(普及推進)			
4.高齢社会に向けての各種調査研究・開発・普及啓発	←										→	
					(調査研究、システム開発、Webでの普及啓発)							
メロウ・グランプリ	←						→					
					(高齢者にやさしい商品・制度等の表彰)							
5.福祉情報化の推進							←				→	
								(介護・子育て支援、高齢者・障害者支援、高齢者対応IT人材育成等)				

## 2. プロジェクト事例

(1) メロウ・シンポジウムの開催

(3) シニアネットの推進

(2) シニア情報生活アドバイザー制度

### メロウ・シンポジウムの開催

メロウ・ソサエティ構想の普及のために、当協会ではメロウシンポジウムを開催しています。

過去10年（10回）のメロウシンポジウムのテーマは下表のとおりです。

回数	基調講演	パネルディスカッション
第6回 (94年10月)	「情報システムの活用と多様化する高齢者のライフスタイル」 児玉文雄	コーディネーター：遠藤泰子 パネリスト：石川好、今田高俊、河野秀樹、小林進
第7回 (95年10月)	「いま、超高齢化社会への離陸」 ～メロウ宣言～ 石井威望	コーディネーター：遠藤泰子 パネリスト：加藤仁、河野秀樹、五代利矢子、谷口正和、土屋正忠
第8回 (96年10月)	「動き出した情報ネットワーク」 ～見えてきたメロウ社会～ 山根一眞	コーディネーター：山根一眞 パネリスト：太田壮一郎、尾野徹、津幡英夫、振角秀行、柳井正義、山口浩
第9回 (98年1月)	「開拓！活き活きメロウライフ」 ～豊かで活力ある高齢社会を目指して～ 清家 篤	コーディネーター：清家 篤 パネリスト：河井寛治、坂本春生、新村拓司、末吉興一、千野正勝
第10回 (99年3月)	「いま、何をすべきか」 ～超高齢化社会に向けての日本再生のシナリオ～ 島田晴雄 慶応義塾大学経済学部教授	「シニアが創る！活力ある21世紀 - 高齢者が主役の社会へ - 」 コーディネーター：島田晴雄 慶大教授 パネリスト：江上節子 産能大経営情報部助教授、河合和 シニア・ルネサンス財団事務局長、澤登信子 ライフ・カルチャー・センター代表取締役、楨慎吾 東葛アイネット代表取締役、山岸秀雄 NPOサポートセンター代表
第11回 (00年2月)	「ニューシルバーの登場」 ～豊かで活力ある社会に向けた新たな潮流～ 上野千鶴子 東京大学教授	「シニアが拓く、豊かで活力ある社会～高齢者がリードする社会づくりに向けて～」 コーディネーター：上野千鶴子 東大教授 パネリスト：大川加世子（コンピューターおばあちゃんの会代表）、坂井武志（森づくりフォーラム事務局長）、庄子平弥（仙台シニアネットクラブ事務局長）、寺岡和子（小樽職人の会／おたる織物社長）
第12回 (01年3月)	「豊かに生きる 我らが世紀」 ～21世紀の明るいシニア像を求めて～ 濱口晴彦 早稲田大学教授 『成熟へのライフスタイル』	「21世紀の明るいシニア像を求めて」 コーディネーター：濱口晴彦（早稲田大学教授） パネリスト：大橋照枝（麗澤大学教授）、坂田哲也（日本IBM）、柴田博（桜美林大学教授）、吉武輝子（評論家・作家）
第13回 (02年3月)	「自ら拓こう シニアの時代」 ～知と技と勇気で生きる～ 森本哲郎 評論家 『遊学期の豊かさ』	「知と技と勇気で生きる」 コーディネーター：松井久子（映画監督） パネリスト：平野茂夫（（株）マイスター60）、吹浦忠正（難民を助ける会副会長）、松田千枝（マラソンランナー）、三上卓治（神田雑学大学）、森本哲郎（評論家）
第14回 (03年3月)	「シニアが主役!! 時代を変える」 ～シニアの知と技が生きる～ 三浦朱門 作家 『大老人』	「地域で光る シニアの力」 コーディネーター：加藤栄（日経マスターズ編集長） パネリスト：今中兵一（飯塚市学習ボランティア派遣事業事務局長）、中城茂登子（（財）日本シルバーボランティアズ指導員）、中村宗哲（漆芸家・千家十職塗師）、堀池喜一郎（NPOシニアSOHO普及サロン・三鷹代表）
第15回 (04年3月)	「“脱”シニア宣言」 ～シニア・ピー・アンビシャス 光る年の重ね方を求めて～ 養老孟司 東京大学名誉教授 『壁の向こうの輝く人生』	「光る年の重ね方を求めて」 コーディネーター：竹内宏（経済評論家） パネリスト：大川加世子（コンピューターおばあちゃんの会代表）、北川安洋（（株）ジーバ代表取締役）、桜井一郎（NPO早稲田創業支援機構理事）、玉川雄司（NPO京都シルバーリング）、長野ヒデ子（絵本作家）

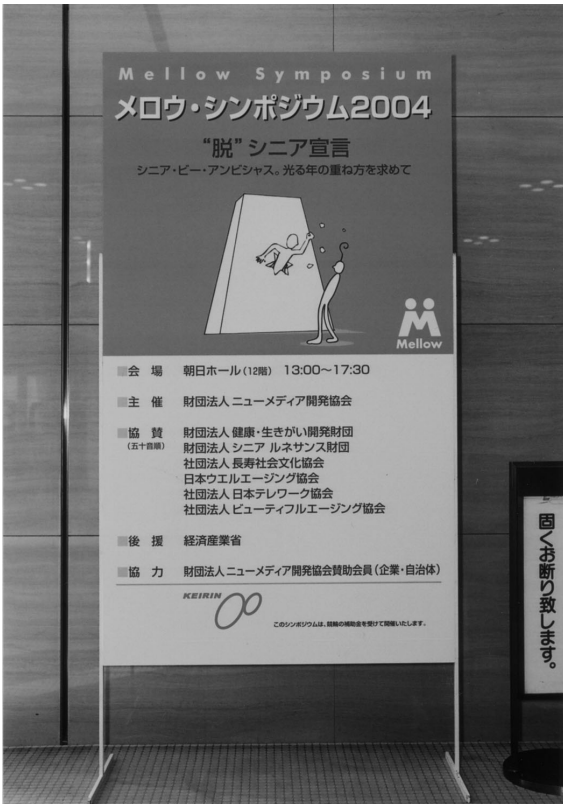


写真1 メロウ・シンポジウム2004



写真2 養老孟司氏「壁の向こうの輝く人生」講演



写真3 パネルディスカッション「光る年の重ね方を求めて」

## シニア情報生活アドバイザー制度

(出典：研究成果レポート12号 2004.7)

### 1. シニア情報生活アドバイザー制度とは

シニア情報生活アドバイザー制度は、「シニア情報生活アドバイザー」を養成し、多くのシニアにITの楽しさ、便利さ等を広め、シニアの活性化、地域の活性化を促進する当協会独自の資格付与制度です。

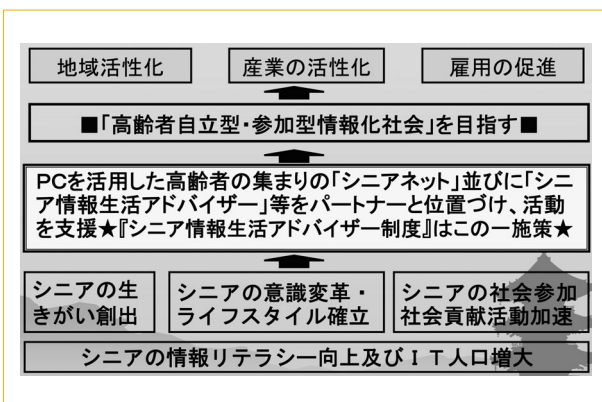


図1 本制度の位置づけ

多くのシニアのご支持を頂くなかで順調に推移し、平成15年度末にはシニア情報生活アドバイザー（以後「アドバイザー」と言います）の数は約1,350名に達し、その活動も各地域で活発化してきております。

### 2. シニア情報生活アドバイザーの活動

- ・地域でのシニア向けのパソコン講習会や実施団体会員向けのパソコン勉強会等の主催や講師として活躍。

地域	養成講座実施団体	アドバイザー数
北海道	4	102名
東北	6	106名
関東	26	599名
中部	6	116名
近畿	9	174名
中国	4	117名
四国	1	7名
九州	3	68名
沖縄	1	61名
合計	60	1350名

表1 地区別の現状

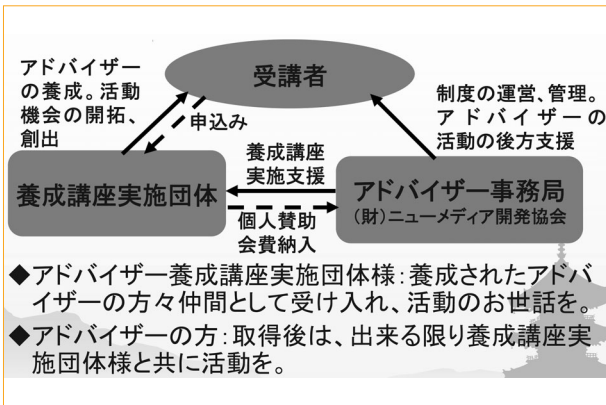


図2 本制度の仕組み

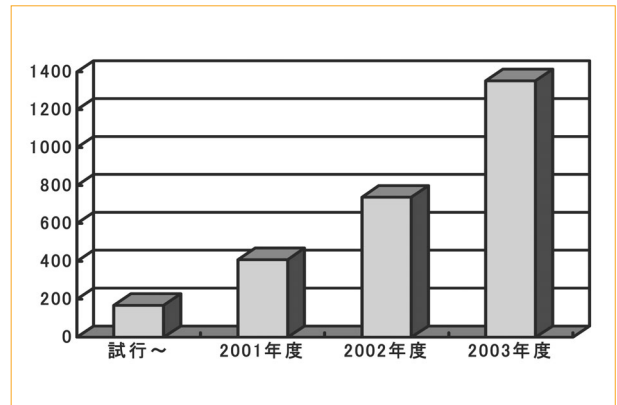


図3 アドバイザー数の推移

- ・自治体の主催したIT講習会や自治体の委託を受けて市民向け講習会や公民館等での何でも相談室を開催するなど自治体と連携し展開。
- ・エコマネー等地域活動と連動した地域密着型活動、社会貢献型の活動を展開。
- ・介護型の有料老人ホームやデイケアセンター等で社会貢献事業を展開している企業等からの委託を受けて、障害を持たれている方々に対してパソコン講習会を展開。
- ・各種イベントでシニア向けパソコン講習に講師として活躍。
- ・シニアネットの新設を行い、地域のシニアを束ね、その中核として活躍。

- ・その他、団体内部の仲間同士のパソコン勉強会等で、仲間との交流や、自己啓発に励む。

### 3. 企業や自治体との連携について ...平成16年度愛媛県との連携が実現

平成16年度から3年間、愛媛県は地域ITリーダー育成事業に本制度を全面的に採用され、地域のIT化を促進することになりました。自治体との協働（コラボレーション）は、今後ますます重要になっていくものと思われ、こうした状況が全国都道府県に拡大されることを期待しております。

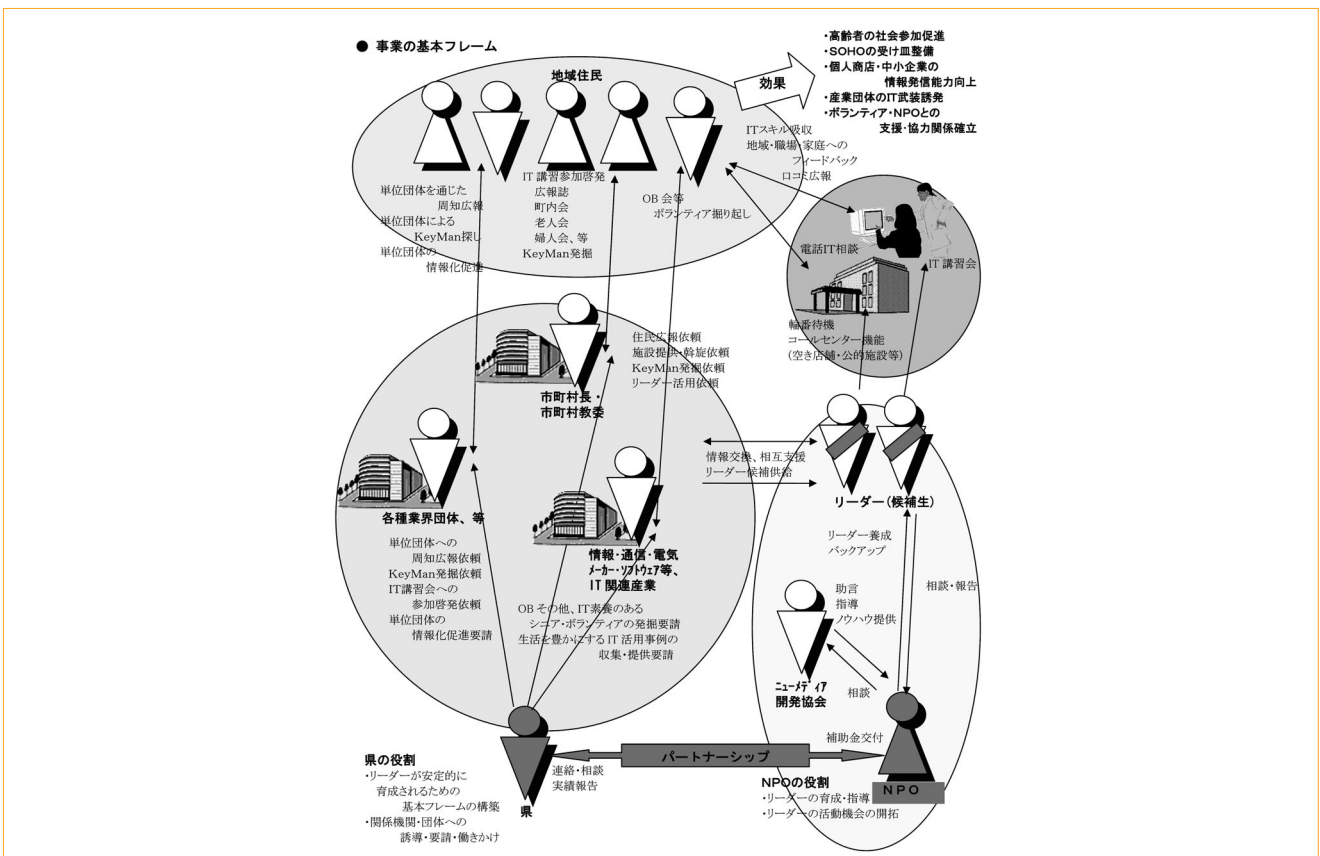


図4 愛媛県の事業概要

## シニアネットの推進

(出典：シニアネットフォーラム資料 2004.2)

我が国では2014年には4人に1人が65歳以上の高齢者（シニア）となり、その後もますますその比率は高くなっていくと予測されております。これは、言い換えればそれだけシニアの社会での重要性がより一層高まることにつながるものと思われまます。これからはシニアの社会での活躍がますます求められることとなります。

高齢化が進行する現在、シニアがITを駆使して地域で活躍する組織として、全国各地で続々と「シニアネット」が誕生し、さまざまな活動を展開しております。

## シニアネットは？

シニア個人にとっては、知識・技術・経験を活かしたの地域社会参加の機会をもたらし、生きがい・仲間づくりの手段となっております。

企業や行政にとっては、高齢社会におけるシニア向けの事業機会の拡大や施策の効果的な展開を図る上で、重要かつ強力なパートナーとなっております。

高齢社会を豊かなものとするために、その主役とも言うべきシニア自身が、シニアが必要とする商品・サービスや社会の仕組み、社会参加のあり方等について、積極的にアイデア・意見を出し、望ましい高齢社会を自らが参加して創出していくことが望まれます。地域に根差して社会参加を果たし、活発な活動を展開しているシニアネットは、まさに、こうした動きの重要な担い手でもあると言えます。

当協会では、かかるシニアネットの活動こそ、「高齢者参加型情報化社会」を実現する原動力になるとの認識から、かねてからシニアネットの活動を支援しております。

この度、平成16年2月には、NPO法人自立化支援ネットワーク様のご協力を得て、学び、交流、ビジネス、まちづくり、ITライフをキーワードとして、今後のシニアネットのさらなる活性化を図るために、「シニアネットフォーラム21 in Tokyo ~21世紀にはばたけ！ シニアネットパワーアップ宣言~」を開催いたしました。

## シニアネットフォーラム 21 in Tokyo

~21世紀にはばたけ！シニアネットパワーアップ宣言~

HOME オープニングセッション 基調講演 パネルディスカッション ワークショップ 加オプションセッション 開催案内 速報

### 報 告

財団法人ニューメディア開発協会では、シニアネットの全国的な普及拡大とその活性化を図るため、2月2日(月)、3日(火)の両日、東京都新宿区の日本青年館で「シニアネットフォーラム21 in Tokyo ~21世紀にはばたけ！シニアネットパワーアップ宣言~」を開催しました。

北は北海道から南は沖縄まで、全国各地から定員をはるかに上回るシニアの皆様にご参加を頂き、熱心な議論と相互交流がなされる等、お蔭様で大変有意義なものとなりました。皆様の活動にお役に立てれば幸いです。ご参加頂いた皆様に、篤く御礼を申し上げます。



00808

この催しは、競輪の補助金を受けて開催いたしました。